



ミラノ近郊でも蝉の声が聞こえるようになりました。21 時過ぎに日が沈むと気温も下がり過ごしやすくなります。日本より湿度が低いので涼しい風も感じられますが、以前に住んでいた上田市よりも蚊が多い様に感じます。

■スリも活動再開

昨年秋からロックダウンが再開され、一番厳しいときは市(comune という行政単位)からの外出が禁止されていました。仕事等の特別な用事での移動には証明書類の携帯が義務付けられ、市の境やターミナル駅では警察による書類確認も実施されていました。

公共交通機関では乗車率 50%以下が運行の条件であったため、スカスカの車内でスリの被害に遭うことはありませんでした。ここに来て電車や街中でスリが増えてきたという話をあちこちで耳にします。6 月の規制解除によりソーシャルディスタンスへの意識が薄れ、人との距離が近くなってきたことでスリも再開したようです。



■ミラノの天気

5 月頃から晴れの日が多く、曇雨天の多い秋～春先までとは違い気持ちの良い日が続いています。一方、夏の夕立のように一瞬の強い雨や雹(ひょう)が降ることもあります。雹もソフトボール大のものがガンガンと降り、車のフロントガラスや住宅の窓ガラスへの被害が後を絶ちません。異常気象はヨーロッパでも起きていました。

同僚曰く、厚い雲がミラノの北側から来るときは一時的な雨、南側から動いてくる時は雷を伴う激しい雨になることが多いとのこと。教えてもらった後に雲の動きを気にするようになり、その傾向を実際に確認できました。地元の話は為になりますね。

19:55 からの天気予報を見ることが多いのですが、予報の途中で番組が終わることがしばしばあります。長野県を例にとると、北部→中部→南部と県内全域の天気・気温が全て表示された後に番組が締めくくられます。

ここロンバルディア州の天気予報も州内を 2 つの地域に分けて天気→気温→風向きが表示されますが、日によっては途中で打ち切れ次の番組へ移ってしまうこともあります。

気温が見られなかったり、見たい地域が省略されたり。初めてそれを見たときはかなりの衝撃を受けたものの、天気予報が外れることも多く

予報を見逃しても大して気にならなくなりました…。



夏の雲を多く見かけるようになりました。

■イタリア国歌 *Inno di Mameli*



F1 レースの表彰時に耳を傾げるくらいだったイタリア国歌。調べてみると、Mameli さんが作詞。イタリア共和国成立の 1946 年に国歌となり、法的に国歌となったのは 2017 年 12 月と最近のようです。

共和国記念日等では終日、テレビ番組や CM を通じて国歌が聞こえたのが印象的です。日本の君が代や日章旗については公立学校等で意見が分かれているのに対し、国ごとの国旗・国歌に対する考え方が大きく異なることが分かります。国旗は住宅のベランダや Bar でよく目にするほか、工事現場の作業車の外側に飾られているのを見たことがあります。



2020 年 10 月 25 日、近所の公道がジロ・デ・イタリア (Giro d'Italia) というロードレースのコースに設定されていました (毎年 5 月の開催ですが、初ロックダウンにより 10 月に延期)。各建物の前には大会を象徴するピンク色とイタリア国旗が数多く掲揚されていました。

毎回サッカーの話で恐縮ですが、コッパ・イタリア (Coppa Italia) という日本の天皇杯に相当する大会で国歌が流れているのを耳にし、これをきっかけに覚えることにしました。まずは YouTube で歌詞の付いた動画を探すところからのスタート。

6 月に開催された EURO2020 のイタリア戦、試合開始前に両国の国歌が流れます。出場選手が胸のエンブレムに手を当てて歌うアレです。住宅の距離が近いミラノ街中では、その時間になるとどの家庭からも国歌が聞こえるといいます。私もその文化に馴染もうと特訓が始まりました。

サッカー好きの同僚の指導? の下、終業後に国歌を練習することになりました。歌詞を間違えると真顔で怒る鬼教官な同僚。そんな彼が色々と動画を送ってくれる中、一番のお気に入りには若手イタリア人オペラ歌手 3 名のユニット、イル・ヴォーロ (IL VOLO) による国歌です。動画を観る度にカッコいいなーと思いながらただただ聞くだけになってしまい、中々覚えることができません 🐣

今更ですが、日伊協会長野のホームページに掲載されていたことに最近気付きました。灯台もと暗しですね。

2021 年 7 月 28 日